

令和5年度 いじめ・不登校・暴力行為等の未然防止事業(心の交流事業) 成果報告書

1 指定校・指定校群 (三豊市立上高瀬小学校)

2 実施の内容

(1) 児童生徒の自己有用感を育む教師の支援(仕掛け)について

① 異学年交流の実施

- 2年生が1年生に、身近にあるもの(ペットボトル、段ボール、紙パック等)で作ったおもちゃで遊んでもらう活動を通して、1年生の立場に立って、喜んでもらえることを考えさせたり、自分の成長を実感させたりできるようにした。(なかよしフェスタ)
- 来年度小学校へ入学予定の幼稚園児に、小学校生活への憧れを抱かせるために、自分たちに何ができるのかを考えた5年生が、幼稚園児と交流を行った。一緒に活動することの楽しさや達成感、年長児の成長につながるかわりについて振り返ることで来年度の最高学年に向けての自覚をもたせようとした。

② 地域の方との交流活動の実施

- 児童の郷土を愛する心を育てるために、3年生が地域のことを大切に想って活動している方々(上小ふるさとの会)と現場に赴き、直に説明を聞く活動を3つのグループに分かれて行った。その後、史跡の見学や郷土の偉人について学んだことを他のグループと発表し合った。地域の歴史を知ることで郷土に関心をもつとともに、地域の方との交流を深める場にもなった。
- 1年生がサツマイモの栽培を幼稚園児や地域の方と一緒に、5年生が米の栽培を保護者、地域の方と一緒に行った。収穫したサツマイモは地域の方のお世話で焼きイモにした。また、お米は日頃お世話になっている地域の方等に配り、感謝の気持ちを表した。この活動を通して、栽培に対する苦労や喜び、お世話をしてくださった方の愛情、他の人の喜びを生み出したことへの自己有用感を感じることができた。

③ 評価活動の工夫(キラリさん見つけ) (年間)

全校生での活動や行事の際、学年をこえたよさやがんばりを見つけ合い、紹介したり掲示したりすることにより、共感的な人間関係づくりを図ったり、自己有用感や自己肯定感を高めたりした。

(2) 児童生徒による自発的・自治的活動について

6年生のリーダーシップによるイベントの実施

- 6年生が企画・運営を行った「なかよしの日」を設定し、縦割り班で、鬼ごっこなどを楽しんだ。全校生に笑顔が広がり、6年生は、リーダーとしての自覚と達成感を得ることができた。



【6年生を中心に遊び方を説明している様子】



【縦割り班で活動している様子】

3 成果

(1) アンケート結果の変遷

分析項目		R 5. 6		R 5. 1 2	
A 自尊感情	①自主性、生活の自信	3. 3	3. 3	3. 3	3. 3
	②学習意欲、学習の自信	3. 3		3. 3	
B 居場所づくり	①学級に関すること	3. 6	3. 5	3. 6	3. 5
	②学習に関すること	3. 4		3. 5	
C 絆づくり	①自分からのかかわり	3. 6	3. 5	3. 6	3. 6
	②他者からのかかわり	3. 5		3. 5	
D 家庭や教師に関すること	①家庭へのニーズ	3. 6	3. 6	3. 7	3. 6
	②教師へのニーズ	3. 5		3. 5	

6月と12月の集計結果をみると全体的には大きな差異はない。しかし、1回目と比較すると、8項目中の6項目が同等で、それ以外の2項目（学習に関すること、家庭へのニーズ）において向上が見られた。また、AからDの区分では、C絆づくりに関する項目において0.1Pの向上が見られた。質問項目では、24問中6項目が同等で、それ以外の10項目「②私は、自分のことが好きだ。」で0.1P、「⑥私は、勉強することが楽しい。」で0.1P、「⑨私のクラスは、失敗しても認めてくれる。」で0.1P、「⑩私のクラスの人は、授業中、私の発表をよく聞いてくれる。」で0.1P、「⑪私のクラスは、授業中、落ち着いて勉強している。」で0.3P、「⑫私のクラスは、授業中、発表しやすいと思う。」で0.2P、「⑬私は、周りの人から感謝されたことがある。」で0.2P「⑰私には、自分の気持ちを分かってくれる友達がいる。」で0.1P、「⑱私のクラスの人は、私にいやなことをしたり言ったりしない。」で0.1P、「⑲家族の人は、私のがんばりを認めてくれる。」で0.1P、「⑳私は、家族の人といっしょにいると安心する。」で0.1P、「㉑先生は、私をほめてくれる。」で0.1Pの向上が見られた。

質問項目⑨、⑬の向上の要因として、幼稚園児や異学年、地域の方等との交流活動の実施が考えられる。

(2) 自発的・自治的な交流活動における児童の様子



【 やきいも体験（1年生） 】 【 おもちゃフェスティバル（2年生） 】 【 幼稚園児との交流（5年生） 】

(3) 総括

- 6年生がリーダーとなって全校遊び等の企画をすることが下級生にとってのよいモデルとなり上高瀬小の文化・伝統へとつながっていくと考えられる。
また、地域の方に教えていただいたり、異学年と交流したりすることで自分らしさを発揮し、自己有用感や自己肯定感を高めることにつながっていると考えられる。
- いじめの防止と早期発見について、「心アンケート」を毎月実施している。些細なことでも見逃さない教師の目を大切に、いじめ認知の意識を高めている。今後も児童の表情や態度の小さな変化を感じ取り、チームで取り組めるようにしていく。